

人工呼吸器を使用されている皆さまへ

落雷や豪雨等の災害による停電に備え、今一度ご確認をお願いします。



福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課

チェック 1

定期的に医療機器メーカーのメンテナンスを受けましょう。

医療機器については、人工呼吸器のように一定の期間で、機器販売会社による定期点検等が必要なものがあります。

外部バッテリーなど、周辺機器も含め定期点検を受けましょう。

チェック 2

非常時に必要なもの（外部バッテリーや酸素ボンベ）は常備しておきましょう。

停電等の非常時には外部バッテリーが有効です。このため、平時から複数台の外部バッテリーを準備しておきましょう。

また、酸素濃縮器を使用されている方は、主治医などと相談し、必要に応じて酸素ボンベをご準備ください。主治医から指示された酸素流量を確認し、停電が起きた場合に酸素ボンベで何時間程度対応できるのか把握しておきましょう。

チェック 3

外部バッテリーは、定期的に新しいものと交換し、常に充電しておきましょう。

外部バッテリーには寿命があり、寿命を越えた外部バッテリーはフル充電ができないため、稼働時間が極端に短くなるおそれがあります。このため、外部バッテリーには購入の年月日を貼り、外部バッテリーの寿命の期限を確認し、期限が過ぎたら早めに新しい外部バッテリーと交換しましょう。また、外部バッテリーは常に十分に充電された状態にしておきましょう。

この他、蓄電池・自家発電装置・自動車のシガーソケット・電気自動車等、外部バッテリーの充電装置の準備をしておきましょう。

チェック 4

停電等の電源異常時にアラームが正しく作動するか確認しておきましょう。

人工呼吸器等には電源の異常を知らせるアラーム機能がついています。停電等電源に異常があった場合に正しく作動するかあらかじめ確認しておきましょう。



チェック 5



療養者に付き添う方は、蘇生バック（アンビューバック）での人工呼吸ができるようにしましょう。

蘇生バックは、人工呼吸器が使用不可能な状態になった場合、最も呼吸確保に役立つものです。いつでも使えるように、療養者の傍らに常に準備しておきましょう。

また、療養者に付き添う方（ご家族等）は、蘇生バックの適切な使用方法について主治医等から指導を受けるとともに、劣化して穴などあいていないかチェックを行い、いつでも使えるようにしておいてください。

チェック 6



吸引器は設置型の他に、充電式（内部バッテリーで作動するポータブル型）・足踏み式・手動式のいずれかの吸引器を準備しましょう

吸引器は、病状に合った吸引力のあるものを主治医等と相談して準備しておきましょう。また、療養者に付き添う方（ご家族等）は、使用方法を確認しすぐに使えるようにしておきましょう。

チェック 7



**停電が長時間続く場合に備えて、主治医と緊急時の入院先について、相談しておきましょう。
また、緊急連絡表を作成し、移動手段や支援者についても確認しておきましょう。**

蘇生バックや外部バッテリーなどの代替機器の利用時間には限りがあります。人工呼吸器の内部・外部バッテリーの作動時間をあらかじめ確認するとともに、停電が長時間続く場合に備えた入院先や移動手段等について、平時から主治医と相談しておきましょう。

また、停電時は固定電話が通じない場合があります。事前に停電時に使用できるかどうか確認のうえ、使用できない場合は、緊急の連絡方法を確保しておきましょう。

作成した緊急連絡先は身近なところに置き、療養者に関わる方々が情報を共有しておくことも大切です。

チェック 8



夏季に停電になった場合は、窓を開けるなどして室温調整を行うとともに、こまめな水分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

夏季に停電になった場合は、窓を開け、遮光カーテンやすだれの活用により、室温調整を行いましょう。

熱中症は、高温多湿な状態で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働かないと起こりやすくなります。症状は、大量の汗をかく、吐き気がする、体のだるさなどです。

予防のためには、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。こまめな水分補給につとめ、通気性の良い衣服等で体温調節を心がけるとともに、時々、体温測定を行いましょう。必要に応じて体を冷やせるように、あらかじめ、冷蔵庫に保冷剤・氷・冷たいタオル等を準備しておくことも大切です。

